

右京・重伝建地区

町家に和文具専門店

尚雅堂 友禅和紙ノートや雑貨

国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている京都市右京区嵯峨鳥居本六反町に、和文具専門店「ADASHINO HOUSE」(あだしのハウス)がオープンした。第1

同区に本社を置く和文具メーカー「尚雅堂」

が初めての実店舗として開いた。同社は色紙短冊や和本の御問屋として1964年に創業した。近年は職人が手擦染で染めた友禅和紙などを使った、朱印帳や和とじのノートとい

った和紙製品を中心に人気を伸ばし、国内や海外にも販路を拡大している。これまでは展示会でしか自社の商品を披露する場がなく「店舗でじっくり商品を選びたい」との声が多く寄せられていたことから、実店舗のオープンをして10年ほど前から構想していた。

毛帳などの文房具をはじめ、筆箱やカードケース、扇子といった身近な小物類まで多様な和紙製品が並ぶ。定番の落ち着いた色合いから、鮮やかなピンクが目を引くネオンカラー、男性でも手に取りやすいシックな色合いを基調とした柄とさまざまな「どれにしようかとお気に入りを選ぶ楽しさも味わってもらいたい」(担当者)としている。



さまざまな色や柄の友禅和紙で作られた和文具が並ぶ「ADASHINO HOUSE」の店内
(京都市右京区嵯峨鳥居本六反町)



和文具メーカー「尚雅堂」の初の店舗としてオープンした「ADASHINO HOUSE」

同地域一帯は小倉百人一首編さんの地としても知られ、同社が創業当初から販売を続けている短冊との縁も深い。松尾安浩社長(63)は「嵐山にも近く、昔ながらの風情が残る場所。和紙製品にさらなる付加価値を与える文化の発信拠点にしていきたい」と力を込める。営業は不定期。開店日時はあだしのハウスのインスタグラムから確認できる。

(佐々木千奈)